

諸法山 菅谷寺本坊改築工事

□価値の保存と機能の向上

諸法山菅谷寺本坊は、明和七年（1770年）頃に建てられたと伝えられる。以来、二百有余年もの間、風雪に耐えつつ、法燈を見守り続けてきたが、老朽化が進み改築することになった。

既存建物は、外部、特に茅屋根の摩耗が著しく見られた他、当初の部分と後の増改築との取り合い部に劣化が見られた。

設計にあたっては、本坊の文化的価値を考慮し、建物の基本的な配置を変えず、和室を中心とした範囲の部材は当初の位置に再利用した。但し、将来にわたり住み続けられる建物となることを基本として、構造補強を行い、食堂や水回り部分は居住に必要な便益を図る整備を行った。

入賞作品	
名 称	諸法山 菅谷寺本坊改築工事
所 在 地	〒959-2511 新潟県新潟市菅谷860-1
用 途	寺院
竣 工 年 月	平成15年9月12日
建築関係者	
建 築 主	宗教法人 諸法山 菅谷寺 新潟市菅谷860-1 代表役員 山岸雅子
設 計 者	株式会社 グリーンシグマ 新潟市板井700-1 設計監理責任者 山崎亮一 担当者 片柳友哉 株式会社 加賀田組 新潟市八千代1-5-32 施工管理責任者 高橋博之 担当者 渡辺博史
施 工 者	

協力 パネル製作：アトリ工機 清水徹

□屋根形状の踏襲と部材の再利用

屋根葺き材は茅の確保や維持管理が困難であるため、銅板に置き替えることとした。但し、茅屋根の形状を踏襲し、将来の茅屋根復元に備えるため、小屋梁、桁、合掌は再利用し、当初の範囲を残すこととした。

平成14年秋より解体組立工事に入り、既存建物をいったん解体し、RC造の基礎を設置した上に、土台を据えなおして軸組を組み立てた。新規の主要部材には「平成十五年修補」の烙印を押した。やむを得ず再利用しなかった部材は小屋裏に保管し、後世に確認が出来るようにした。

◇外観について
解体前の茅屋根の形状を銅板で再現するため、模型によって検討を行った。



検討模型写真



解体前の茅屋根の外観



茅屋根の形状を踏襲した改築後の外観

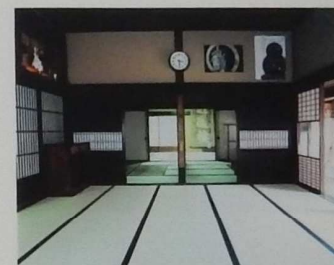
◇内部について
和室まわり、広縁の部材（柱・長押・敷居・鴨居・建具）は修繕して再利用し、解体前の姿を残した。



和室15帖



仏間

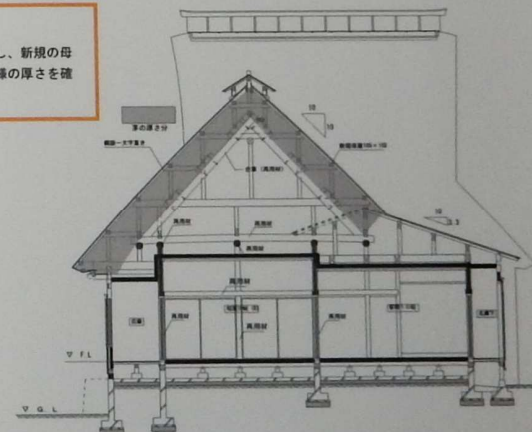


三間続く和室を臨む

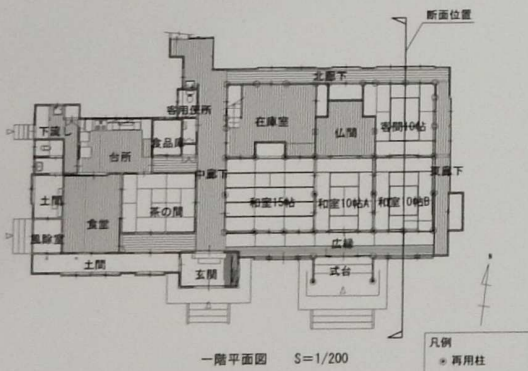


広縁（再利用した柱、建具）
※写真提供 有限会社クシロ

◇小屋組について
再利用した合掌の上に東立てし、新規の母屋を据えて解体前の茅と同様の厚さを確保した。



断面図 S=1/100



一階平面図 S=1/200

凡例
※ 再利用柱



茅撤去後の式台部分



西側 兜造り屋根